2023年5月15日
13時～15時
ウェブ開催

2023年度教宣部長・担当者会議

【日時】　2023年5月15日（月）13：00～15：30

【Zoomミーティング URL】

https://us02web.zoom.us/j/88118842500

ミーティング ID: 881 1884 2500

パスコード: 080218

※「ビデオ」を**「オン」**、「マイク」は**「ミュート」**でご参加ください。

※名前を「00県名名前」に変更をお願いします。（例50本部羽鳥）

全日本自治団体労働組合

次　　第

1．開会（13:00）　　　　　　榎本朋子　総合企画総務局長

2．本部からの報告と提起

（1）本部の活動状況報告

（2）本部からの問題提起

本部報告と提起に関する質疑・意見交換

休　憩（14:00～14:15）

3．県本部の活動報告

（1）北海道本部　　　機関紙コンクールの開催

（2）大阪府本部　　　LINE 公式アカウントを活用した情報発信

（3）鹿児島県本部　　情宣セミナーの開催

県本部報告への質問・意見交換

4．まとめ

（閉会　15:00）

2023 年度教宣部長・担当者会議

本部からの報告と提起

1.　本部の活動状況

（1）機関紙「じちろう」

機関紙「じちろう」はタブロイド版・2 ページを基本に、この間、形式上は「毎月 1 の日発行」（月 3 回）としながら、予算の制約で実質月 2 回発行としていました。今年 4 月から、「毎月 1 日・15 日発行」（月 2 回）に変更しています。

（2）機関誌「自治労通信」

経費節減のため、2022 年 10 月以降は従前の 32 ページ・2 色から 24 ページ・カラーへと減ページするとともに、「自治労通信デジタル（テスト版）」を発行しています。2023 年夏号（7 月）を最後に印刷版の発行を取りやめ。2023 年 11 月からはデジタル版のみの発行とします。

（3）デジタルメディアでの情報発信

自治労公式ホームページは 2022 年 9 月からリニューアルしました。集会、交渉などの情報を随時、Facebook と Twitter、YouTube でも発信しています。

（4）写真・イラスト・記事素材等の提供

産別ネット・じちろうネット上に「教宣ポータル」「キャラクター等素材集」のページを設け、自治労本部の機関紙誌のデータ、各県本部の機関紙の PDF ファイル、本部が撮影した集会・交渉等の写真、県本部・単組の機関紙ビラやイラストに使用できるイラスト、キャラクター、ロゴなどを掲載し、適宜、更新しています。新情報を掲載した際には「じちろうネット」の掲示版で県本部・単組にお知らせを発信しています。

（5）情宣セミナー・県本部情宣活動支援

情宣セミナーは毎年 1 回開催し、機関紙・ビラの作成の実習を中心に多くの参加者を得ています。コロナ禍の下で対面開催が困難となった中で、ウエブを活用した講座運営を試みてきました。まだ解決・改良すべき技術的な課題がありますが、費用をかけずに職場から気軽にオンラインで受講できることで、小規模単組からも参加者が増えるなど、肯定的な傾向も生まれています。

（6）各種コンクール

2022年度には「文芸・写真・まんがコンクール」を開催しました。2023年度は7月に機関紙コンクールを開催します。文芸とまんがコンクールは、応募数の低迷、応募者の固定化などの傾向が続き、運営の中心を担う文芸会議およびまんが集団の幹事会の欠員や高齢化が顕著となっていることから、関係者で今後のあり方の議論を進めています。

2. 県本部の情報発信活動の調査から

今回、県本部の機関紙を始めとする情報発信活動の状況の一端を把握するため簡単な調査を行いました。ここから以下の特徴を指摘し、課題を整理してみます。

（1）県本部機関紙の編集体制と定期発行　（別表1）

今回の県本部の活動状況の調査結果は、別紙集約表の通りです。

なお本部に県本部機関紙を毎号50部ずつ送付いただき、本部から各県本部に提供するとともに、産別ネット「教宣ポータル」に、それぞれの県本部機関紙をKintoneを通してPDF形式で貼付していただくようお願いしているところです。一部に、産別ネットへのデータ貼付を行っていない県本部が散見されますが、情報共有のためにご協力をお願いいたします。

（2）単組の機関紙活動の指導について　（別表2）

今回の調査結果（別表2）から、単組の発行する機関紙を県本部で集約し単組間で共有を図ること、単組の機関紙発行状況を把握することが、必ずしも十分になされていない現状が明らかになりました。これらの取り組みは県本部が単組の機関紙活動状況を把握し、適切な支援、指導を行う上での基礎となることから、改めて取り組みの必要性を強調しておきます。今回の調査結果からは、以前は開いていた情宣セミナーが休止中の県本部が散見されるなど、克服すべき課題が確認できます。第15回自治労組織基本調査によれば、機関紙を発行している単組は61.3%にとどまっています。単組の機関紙発行は、単組活動の基礎となるものです。県本部でも情宣セミナーの開催や機関紙コンクールの実施などを通して、単組の機関紙活動を後押ししていくことが求められています。

（3）SNS利用の状況　（別表3）

第15回自治労組織基本調査によれば、ＳＮＳで情報発信を行っている単組は全体の8.1%であり、社会一般の普及・関心度に比して著しく遅れています。今回の県本部調査では、活用は広がりを見せつつあるものの、いまだ多くの県本部では本格的な運用には至っていないと言えます。その要因には、積極的活用のイ

メージ（目的）が描き切れていないことや、担当者配置の課題などがあると思われます。「流行りだから」「若い人は紙メディアを見ないから」「安価である」等々の消極的な理由だけではなく、「何を、どう伝えるか」の積極的な目的の確認が必要です。また、公式アカウントを開設した県本部でも、組合員の登録が伸び悩む等の課題があります。

なお本部では、連合のものに準じて、Facebook と Twitter の運用について、別紙の「投稿基準モデル案」を作成してみました。ご議論ください。

（4）本部提供素材、新採対策の情報宣伝物について　（別表 4）

本部で作成し提供している写真、イラスト等の素材、新採対策の情報宣伝物への評価をおたずねしました。全体としては「普通」といった評価かと受け止めますが、自由意見で出されたご意見、ご提案も含めて本部として受け止め、今後提供する宣伝物等の質の向上、提供体制の改善に努めていきます。

本日の会議でも、これらの情報宣伝物の必要性の有無、使い勝手の良し悪しと改善策などについて、忌憚ないご意見をおきかせください。

また、情宣セミナー等のあり方、県本部・単組の情宣活動支援についても、ご意見を参考に充実を図ります。

3.　本部からの問題提起

以上のことを踏まえ、本日の討議のため以下を提起します。出された意見等を参考に、2024-2025 年度運動方針（案）への反映を検討していきます。

（1）県本部・単組の機関紙活動強化のためセミナー等を充実させます

単組の情報宣伝活動を強化します。単組の情報発信なくしては、組合員は組合の意義を理解することはできませんし、単組機関紙の機能を県本部や本部の機関紙で代替することはできません。本部は、情宣セミナーや機関紙素材の提供を強化し、単組の機関紙活動の技術強化のための支援に努めます。情宣セミナーは、これまで年 1 回の開催でしたが、今年度からは以下の方向性での開催を検討しています。

①初級セミナー（「Word で作る新聞」および「パワーポイントで作るビラ」）
主として単組等で手作りの新聞、ビラを作成する人を対象に、基礎的技術の習得を目的に開催。完全リモート講習・1 回半日・年 2 回

②中級セミナー　主に県本部・大規模単組等で外注での機関紙を作成する担当者を対象に、技術向上と情宣活動の進め方の議論深化を目的に開催。対面のみ・1 泊 2 日・年 1 回

また、機関紙作成技術の研さんの場として機関紙コンクールを実施します。

（2）ＳＮＳ利用の好事例の共有をはかります

機関紙という紙媒体による情報発信に加え、急速に社会に普及しているＳＮＳの影響力を無視することはできません。安価であるという点もメリットです。各種ＳＮＳの特性を理解し、労働組合活動に適した情報発信ができるツールを選択することが大切です。当面、利用者が全世代を通して最も多く、情報伝達の対象範囲を限定しやすいLINE公式アカウントを中心に利用を進めることを基本方針とします。本部は、安全で効果的なＳＮＳ利用の運用方法の考え方を示すともに、効果的な活用事例の共有と経験蓄積を図ります。

（3）読みやすい機関紙「じちろう」の紙面づくりとデジタル版自治労通信の活用を促進します

労働組合機関紙はまだタテ組みが主流ですが、単組機関紙はヨコ組みが増えています。組合員へのなじみやすさや、初心者でもレイアウトがしやすいという利点があります。本部では機関紙「じちろう」の紙面のヨコ組みテスト版を発行してきました。今後も試行を重ね、ヨコ組みへの移行を検討します。

自治労通信は2023年夏号（7月）をもって紙媒体での発行を取りやめ、デジタル版の配信のみとなります。デジタル版とすることで、利用したい単組が利用したい記事をダウンロードし、利用したい部数をコピーすることで、単組・職場での回覧や学習会資料などに活用することを意図しています。今後も、「じちろうネット」「じちろうモバイル」で周知に努め、利用促進を図ります。

4.　県本部の取り組み報告

今回の会議では3つの県本部の活動を報告していただき、情報共有する中で、それぞれの県本部で優れた取り組みに学び、参考としていただきたいと思います。また自治労全体で、今後の情報宣伝活動で重視すべき課題について理解を深めたいと思います。

（1）北海道本部　機関紙コンクールの取り組み
報告者　高田将平さん（教宣部長）

（2）大阪府本部　LINE公式アカウントを活用した情報発信
報告者　武田　和さん（書記）

（3）鹿児島県本部　県本部「教宣集会」の取り組み
報告者　高橋新吾さん（書記）

添　付　資　料

○県本部調査集約表（EXCEL シート）

別表１　2023 年度　県本部教宣担当者名、機関紙発行の状況
別表２　単組指導の体制
別表３　デジタルメディア（ウエブサイト、SNS）の活用
別表４　本部作成情宣物の評価
別表５　主な自由記載意見（要旨）
＊5 月 10 日時点の報告です。報告が間に合わなかった県本部について情報を追加し、後日に完成版を配布します。

○抜粋　第 15 回組織基本調査結果（pdf）

○主な SNS とその特性

○単組・県本部用　Facebook 投稿基準　モデル

○単組・県本部用　twitter への投稿基準　モデル

○県本部報告資料

北海道本部
大阪府本部
鹿児島県本部

2023年度　県本部教宣担当者名、機関紙発行の状況　　**別表1**

県本部	担当役員	担当書記	体裁	発行頻度	作成方法	その他
北海道	高田将平（教宣部長）	中村香菜	タブロイド版/タテ	月3回以上	記事からレイアウトまで内部/組版・印刷は外注	内部組版に移行中
青森	加藤篤（副委員長）	複数担当性	タブロイド版/タテ	月3回以上	記事からレイアウトまで内部/組版・印刷は外注	
岩手	-	三浦章宏	タブロイド版/タテ	不定期	記事からレイアウトまで内部/組版・印刷は外注	
宮城	岡本雄大（教宣部長）	菊池涼太	タブロイド版/タテ	月2回	記事からレイアウトまで内部/組版・印刷は外注	
秋田	佐藤学（書記長）	川又隆史	タブロイド版/タテ	月2回	記事から組版まで内部/印刷は外注	
山形	渡部貴之（執行委員長）	安藤寛菜	タブロイド版/タテ	月1回	記事からレイアウトまで内部/組版・印刷は外注	
福島	鈴木茂（書記長）	-	タブロイド版/タテ	月1回	記事からレイアウトまで内部/組版・印刷は外注	
新潟	前田光洋（教宣部長）	加藤　謙	タブロイド版/タテ	月3回以上	記事からレイアウトまで内部/組版・印刷は外注	
群馬	後藤典政（労働政策局長）	磯部雄太	タブロイド版/タテ	月1回	記事からレイアウトまで内部/組版・印刷は外注	
栃木	大関寛泰（書記次長）	佐々木圭子	A4版/タテ	月2回	記事からレイアウトまで内部/組版・印刷は外注	
茨城	生井澤律子（書記長）	小林弘美	タブロイド版/タテ	月2回	記事からレイアウトまで内部/組版・印刷は外注	
埼玉	前原朝子（委員長）	複数担当性	タブロイド版/タテ	月2回	記事からレイアウトまで内部/組版・印刷は外注	
東京	須崎崇文（書記次長）	複数担当性	タブロイド版/タテ	月1回	記事からレイアウトまで内部/組版・印刷は外注	
千葉						
神奈川						
山梨	後藤真彦（書記次長）	-	A4版/ヨコ	不定期	記事から印刷まで全工程を内部作成	Wordで作成
長野						
富山	田中実（書記長）	酒井雄司	タブロイド版/タテ	月2回	記事からレイアウトまで内部/組版・印刷は外注	
石川						
福井						
静岡	神原光（執行委員）	山田克彦	その他	月1回	記事からレイアウトまで内部/組版・印刷は外注	
愛知	入江義寛（特執）	松本高徳	B4版/8タテ	月1回	記事から印刷まで全工程を内部作成	イラストレーター
岐阜						
三重	宮脇拓也（副委員長）	松井　涼	タブロイド版/タテ	月3回以上	記事からレイアウトまで内部/組版・印刷は外注	
滋賀	川村幸久（書記次長）	頼富敦子	タブロイド版/タテ	不定期	記事からレイアウトまで内部/組版・印刷は外注	
京都						
奈良	桐木正明（委員長）	西窪敏和	タブロイド版/タテ	月3回以上	記事から組版まで内部/印刷は外注	
和歌山	田伏　成悟（書記次長）	増田　真治			記事から組版まで内部/印刷は外注	
大阪	金子俊雄(副執行委員長)	武田　和	タブロイド版/タテ	月3回以上	記事のみ内部、レイアウト以降外注	編集ソフト使用
兵庫	秦信昭（教宣部長）	藤田正也	タブロイド版/タテ	月2回	記事からレイアウトまで内部/組版・印刷は外注	
岡山	井上尚弥（書記長）	秋久直寛	タブロイド版/タテ	月1回	記事からレイアウトまで内部/組版・印刷は外注	
広島	竹田恵（書記長）	叶　理恵	タブロイド版/タテ	月3回以上	記事からレイアウトまで内部/組版・印刷は外注	
鳥取						
島根	木下幹也（書記長）	谷口　悠	タブロイド版/タテ	月2回	記事から組版まで内部/印刷は外注	
山口	古川俊（書記長）	山口容子	A4ヨコ組み中折り	月2回	その他	
香川	久保武士(副執行委員長)	輪番制	タブロイド版/タテ	月3回以上	記事からレイアウトまで内部/組版・印刷は外注	
徳島	鈴木圭吾（書記長）	山田みゆき	タブロイド版/タテ	月1回	記事からレイアウトまで内部/組版・印刷は外注	
愛媛	池川慎也（書記次長）	大西竜郎	B4版/タテ	月1回	記事から印刷まで全工程を内部作成	
高知	山﨑幹生（書記長）	山内美穂	タブロイド版/タテ	月2回	記事からレイアウトまで内部/組版・印刷は外注	
福岡						
佐賀	永石亀（組織教宣局長）	複数担当性	タブロイド版/タテ	月2回	記事からレイアウトまで内部/組版・印刷は外注	
長崎	村田元輝（書記次長）	-	B4版/タテ	月1回	記事のみ内部、レイアウト以降外注	
大分	黒木崇裕（総務教宣部長）	工藤裕子	B4版/ヨコ	月1回	記事から組版まで内部/印刷は外注	
宮崎	三木貴史（書記長）	-	タブロイド版/タテ	月2回	記事からレイアウトまで内部/組版・印刷は外注	
熊本	森友紀（書記次長）	島崎　真	タブロイド版/タテ	月3回以上	記事から組版まで内部/印刷は外注	Photoshop
鹿児島						
沖縄						
社保労連	佐藤進（企画組織局長）	-		不定期	記事から組版まで内部/印刷は外注	

単組指導の体制

別表2

県本部	単組機関紙の収集・共有	単組機関紙の発行状況等の把握	セミナー開催	機関紙コンクール
北海道	×	❍	休止中	❍
青森	×	❍	×	×
岩手	❍	×	×	×
宮城	❍	×	休止中	×
秋田	×	×	休止中	×
山形	×	×	×	×
福島	×	×	❍	❍
新潟	❍	×	❍	×
群馬	❍	❍	❍	❍
栃木	❍	❍	❍	❍
茨城	×	×	×	×
埼玉	❍	×	×	×
東京	❍	❍	×	×
千葉				
神奈川				
山梨	×	❍	×	×
長野				
富山	×	❍	×	×
石川				
福井				
静岡	❍	×	❍	×
愛知	❍	×	×	❍
岐阜				
三重	×	×	休止中	×
滋賀	休止中	❍	❍	×
京都				
奈良	×	×	×	×
和歌山	❍	×	×	×
大阪	×	×	×	×
兵庫	❍	×	×	×
岡山	×	❍	×	×
広島	❍	×	×	×
鳥取				
島根				
山口	×	❍	×	×
香川	❍	×	❍	×
徳島	×	❍	×	×
愛媛	×	❍	休止中	❍
高知	❍	×	×	×
福岡				
佐賀	×	×	×	❍
長崎	❍	❍	休止中	❍
大分				
宮崎	×	×	休止中	×
熊本	×	×	❍	×
鹿児島				
沖縄				
社保労連	❍	❍	×	×
❍の県本				

デジタルメディア（ウエブサイト、SNS）の活用

別表3

県　本　部	HPの有無	SNSの利用	機関紙との担当分け
北　海　道	有	FB/Twitter	兼任
青　　　森	無	無	－
岩　　　手	無	無	－
宮　　　城	無	無	－
秋　　　田	無	無	兼任
山　　　形	無	無	－
福　　　島	有	無	別担当
新　　　潟	無	無	－
群　　　馬	有	無	別担当
栃　　　木	有	無	兼任
茨　　　城	有	FB/LineWorks	兼任
埼　　　玉	無	FB	兼任
東　　　京	有	FB	兼任
千　　　葉			
神　奈　川			
山　　　梨	－	LineWorks	兼任
長　　　野			
富　　　山	無	無	－
石　　　川			
福　　　井			
静　　　岡	無	－	－
愛　　　知	有	FB/LineWorks	兼任
岐　　　阜			
三　　　重	有	FB/LineWorks	兼任
滋　　　賀	有	FB	別担当
京　　　都			
奈　　　良	有	FB/Twitter/LINE	別担当
和　歌　山	無	－	－
大　　　阪	有	LINE	
兵　　　庫	有	FB	－
岡　　　山	有	FB	兼任
広　　　島	有	FB	－
鳥　　　取			
島　　　根	無	FB/Twitter/LINE/LineWorks	
山　　　口	無	無	－
香　　　川	無	FB/YouTube	
徳　　　島	無	無	－
愛　　　媛	有	無	
高　　　知	無	FB	別担当
福　　　岡			
佐　　　賀	無	無	－
長　　　崎	無		兼任
大　　　分	有	FB	別担当
宮　　　崎	無	FB/LineWorks	兼任
熊　　　本	有	FB	別担当
鹿　児　島	有		兼任
沖　　　縄			
社　保　労　連	無	無	－

本部作成情宣物の評価

別表4

県　本　部	本部提供 素材の活用	WITH　YOU	「じちろう」 新入組合員歓迎号	Whats自治労
北　海　道	ときどき利用	普通	良い	普通
青　　　森	ときどき利用	－	－	－
岩　　　手	ときどき利用	良い	良い	良い
宮　　　城	よく利用	良い	良い	良い
秋　　　田	よく利用	良い	良い	良い
山　　　形	よく利用	普通	普通	良い
福　　　島	利用なし	普通	普通	普通
新　　　潟	ときどき利用	普通	普通	普通
群　　　馬	ときどき利用	普通	普通	良い
栃　　　木	ときどき利用	普通	不要	良い
茨　　　城	よく利用	普通	良い	普通
埼　　　玉	ときどき利用	普通	普通	普通
東　　　京	ときどき利用	普通	普通	良い
千　　　葉				
神　奈　川				
山　　　梨	よく利用	良い	良い	良い
長　　　野				
富　　　山	よく利用	不要	不要	不要
石　　　川				
福　　　井				
静　　　岡	ときどき利用	普通	普通	良い
愛　　　知	ときどき利用	普通	普通	普通
岐　　　阜				
三　　　重	よく利用	良い	良い	良い
滋　　　賀	ときどき利用	普通	普通	普通
京　　　都				
奈　　　良	よく利用	良くない	普通	普通
和　歌　山	ときどき利用	普通	普通	普通
大　　　阪	ときどき利用	普通	良い	普通
兵　　　庫	ときどき利用	良い	良い	良い
岡　　　山	よく利用	良い	普通	普通
広　　　島	よく利用	良い	良い	良い
鳥　　　取				
島　　　根	よく利用	よく知らない	普通	良い
山　　　口	よく利用	良い	良い	良い
香　　　川	よく利用	－	－	－
徳　　　島	よく利用	普通	良くない	普通
愛　　　媛	ときどき利用	良い	良い	良い
高　　　知	よく利用	普通	良くない	良い
福　　　岡				
佐　　　賀	ときどき利用	普通	普通	普通
長　　　崎	ときどき利用	普通	普通	良い
大　　　分				
宮　　　崎	よく利用	良い	普通	良い
熊　　　本	よく利用	良い	良い	良い
鹿　児　島				
沖　　　縄				
社 保 労 連	ときどき利用	良い	良い	普通

＜主な自由記載意見（要旨）＞

別表5

○新採教宣物について

- おおむね好評と認識。取り組めている単組は本部や県本部作成の教宣紙以外にも自前の教宣物も作成している一方で、取り組めていない単組では教宣物の活用もできてなく、課題である。
- もう少しわかりやすいリーフレットのようなものがあるとよい。
- 共済の新採教宣物と作業スケジュールを合わせてほしい。
  What’ｓ自治労は、もっと薄めの冊子でいい。
- What’s自治労では用語説明等もあり、初歩的なことも含めて、確認したい時に活用している
- What’s自治労でそもそも平和活動に取り組む意義を記載してほしい。
- WITH YOUについては、毎年同じような感じでもう少し目を引くデザインに出来ないものかと思っています。
- 新採特集号は芸能人の方の経験からの思いを使って、分かりよく伝えようとされているのかもしれませんが、伝えようとされている内容があまりに少なくなっていないでしょうか。
- 新採向けリーフサンプルの種類を増やしてほしい。A4サイズ1枚でおさまるようなものを希望します
- what’s自治労については漫画も掲載してあるなど、労働組合の入門書としてかなり読みやすい。また、巻末の用語集も使いやすい。
- 単組の役員さんからは、加入促進という観点では、今回の新採特集号は使えないとのご意見がありました。

○本部の情報宣伝活動への意見

- カット集などはデータ配信のみで、冊子で発行する必要はないと思います。
- SNSの発信が少ない。
- 本部情宣セミナーが、講師を含めワンパターン化している。専任者レベルでなく、非専の単組担当者がすぐに実践でき、役に立つ内容にしてほしい。キャラクターのイラスト作者がバラバラなので統一して使いづらい。イラストも昔の労組のイメージ。
- 写真素材（機関会議や組織内議員関係）について、活用させていただいております。これからも一層の充実をいただけると助かります。
- 人事院の中央交渉の写真の構図が微妙

<主な自由記載意見（要旨）>

- 情報宣伝のあり方については、若年層を含めて様々な世代の意見を取り入れる機会があるといいと思う。情宣セミナーで、今後の自治労の情報宣伝のあり方を議論する分科会があっても面白いかなと思います。

- 組合側が伝えたい情報を組合員に受け取ってもらうには、「見る側」の視点が重要だと考えています。組合員が「見たい」と思う情報が基本で、その中にこちらが伝えたい情報を少し入れる、ぐらいでなければ受け取ってもらえません。
  紙媒体かWEB媒体か以前の問題で、まずは発信する内容を考えることが先ではないでしょうか。情報が少なかった時代のやり方のままでは、情報が溢れる今の時代の組合員には対応できないと思います。

- 様々なケースに対応するために各種SNSの活用や情報共有していただいているのはありがたい。かなり力を入れている印象がある。

- 最近になり自治労本部がデジタル方面に注力していることを高く評価したい。ただ、民間企業と比較した場合に相当な遅れがあることは否定しようなくさらに一層この方面への注力が必要である。例えば、SNSの必要性を説いているだけでは県本部・単組は動かない。そのためには、本部が積極的にSNSの活用方法を模索し、理解を深化させていなければいけない。

○情宣活動における困りごと、本部への要望等

- 組合員に身近な機関紙を作成しようと心掛けていますが、経費、業務の都合から、単組に取材する機会がなかなか確保できていません。

- 単組で教宣を配布しきれていないところがある。単組から、県本部教宣への感想や声をひろいきれていないので、どうった内容が望まれているのかがわからない。

- 元々は月2回発行だったものが、最近は月1回も発行できなくなっていた。単組を指導する立場なのに、県本部の機関紙のレベルが単組より落ちていると感じていた。今年度から担当者となったので、発行回数・内容ともに改善を図りたいと考えている。

- 現状で予定はしていませんが、情宣担当者育成のセミナー等の開催する際は講師派遣等、ご相談させてください。

- 写真提供サービスに各局で撮影した写真をもっと上げてほしいです。

- 紙媒体からデジタルへの移行は必須となるでしょうが、どのようにすればうまく移行できるのか。欲しい情報は自分から取りに行ける時代に、必要だと思われていない情報をどのように組合員に落とし込めるのか。工夫が必要だと感じています。

＜主な自由記載意見（要旨）＞

- ご承知の通り公式LINEアカウントを運用していますが、組合員の登録が進みません。
  恐らく内容以前の問題で、以下の3点が原因ではないかと考えています。
  ◆単組の組織力が低下し、組合員に公式LINEの存在が伝えきれていない
  ◆単組に対する組合員からの信頼感が低下し、組合からの情報は見たいと思ってもらえない
  ◆県本部に対する単組からの信頼感が低下し、単組が組合員に、県本部発信の情報を下ろしたいと思っていない。これらの打破には組合員に対する「自治労」そのもののPR戦略が不可欠と考えます。
  自治労が抱える組織力・組織人員低下の問題にも直結する課題だと思います。
  自治労のスケールメリットを活かし、旧来のやり方にとらわれない、組合員にとっての「自治労」の新しい価値を創出するような知恵を、自治労総体を挙げて各県本部・単組とともに振り絞ってほしいと思います。

- SNSなど情報発信に対する意識が役職者のなかで薄く感じる。
  役職者の多くはツールや時間、人員リソースを現状維持で進めようとしたり、情報発信のリスクに意識が行き、炎上を恐れすぎる傾向にある。そのため、取り組みが出来ていないように感じる。

- Tiktok, Twitter, Instagram, Youtube, Facebookなどのプラットフォーム上の「素晴らしい」コンテンツに囲まれて暮らしている組合員のことを思います。

- 作成人数が少ない。専門者（書記など）がいない。

＜主な自由記載意見（要旨）＞

別表5

○新採教宣物について

おおむね好評と認識。取り組めている単組は本部や県本部作成の教宣紙以外にも自前の教宣物も作成している一方で、取り組めていない単組では教宣物の活用もできてなく、課題である。

もう少しわかりやすいリーフレットのようなものがあるとよい。
共済の新採教宣物と作業スケジュールを合わせてほしい。
What’ｓ自治労は、もっと薄めの冊子でいい。
What’s自治労では用語説明等もあり、初歩的なことも含めて、確認したい時に活用している
What's自治労でそもそも平和活動に取り組む意義を記載してほしい。

WITH YOUについては、毎年同じような感じでもう少し目を引くデザインに出来ないものかと思っています。

新採特集号は芸能人の方の経験からの思いを使って、分かりよく伝えようとされているのかもしれませんが、伝えようとされている内容があまりに少なくなっていないでしょうか。

新採向けリーフサンプルの種類を増やしてほしい。A4サイズ1枚でおさまるようなものを希望します

what's自治労については漫画も掲載してあるなど、労働組合の入門書としてかなり読みやすい。また、巻末の用語集も使いやすい。

単組の役員さんからは、加入促進という観点では、今回の新採特集号は使えないとのご意見がありました。

○本部の情報宣伝活動への意見

カット集などはデータ配信のみで、冊子で発行する必要はないと思います。

SNSの発信が少ない。

本部情宣セミナーが、講師を含めワンパターン化している。専任者レベルでなく、非専の単組担当者がすぐに実践でき、役に立つ内容にしてほしい。
キャラクターのイラスト作者がバラバラなので統一して使いづらい。イラストも昔の労組のイメージ。
写真素材（機関会議や組織内議員関係）について、活用させていただいております。これからも一層の充実をいただけると助かります。

人事院の中央交渉の写真の構図が微妙

＜主な自由記載意見（要旨）＞

情報宣伝のあり方については、若年層を含めて様々な世代の意見を取り入れる機会があるといいと思う。情宣セミナーで、今後の自治労の情報宣伝のあり方を議論する分科会があっても面白いかなと思います。

組合側が伝えたい情報を組合員に受け取ってもらうには、「見る側」の視点が重要だと考えています。組合員が「見たい」と思う情報が基本で、その中にこちらが伝えたい情報を少し入れる、ぐらいでなければ受け取ってもらえません。
紙媒体かWEB媒体か以前の問題で、まずは発信する内容を考えることが先ではないでしょうか。情報が少なかった時代のやり方のままでは、情報が溢れる今の時代の組合員には対応できないと思います。

様々なケースに対応するために各種SNSの活用や情報共有していただいているのはありがたい。かなり力を入れている印象がある。

最近になり自治労本部がデジタル方面に注力していることを高く評価したい。ただ、民間企業と比較した場合に相当な遅れがあることは否定しようなくさらに一層この方面への注力が必要である。例えば、SNSの必要性を説いているだけでは県本部・単組は動かない。そのためには、本部が積極的にSNSの活用方法を模索し、理解を深化させていなければいけない。

○情宣活動における困りごと、本部への要望等

組合員に身近な機関紙を作成しようと心掛けていますが、経費、業務の都合から、単組に取材する機会がなかなか確保できていません。

単組で教宣を配布しきれていないところがある。単組から、県本部教宣への感想や声をひろいきれていないので、どうった内容が望まれているのかがわからない。

元々は月2回発行だったものが、最近は月1回も発行できなくなっていた。単組を指導する立場なのに、県本部の機関紙のレベルが単組より落ちていると感じていた。今年度から担当者となったので、発行回数・内容ともに改善を図りたいと考えている。

現状で予定はしていませんが、情宣担当者育成のセミナー等の開催する際は講師派遣等、ご相談させてください。

写真提供サービスに各局で撮影した写真をもっと上げてほしいです。

紙媒体からデジタルへの移行は必須となるでしょうが、どのようにすればうまく移行できるのか。欲しい情報は自分から取りに行ける時代に、必要だと思われていない情報をどのように組合員に落とし込めるのか。工夫が必要だと感じています。

＜主な自由記載意見（要旨）＞

ご承知の通り公式LINEアカウントを運用していますが、組合員の登録が進みません。
恐らく内容以前の問題で、以下の3点が原因ではないかと考えています。
●単組の組織力が低下し、組合員に公式LINEの存在が伝えきれていない
●単組に対する組合員からの信頼感が低下し、組合からの情報は見たいと思ってもらえない
●県本部に対する単組からの信頼感が低下し、単組が組合員に、県本部発信の情報を下ろしたいと思っていない
これらの打破には組合員に対する「自治労」そのもののPR戦略が不可欠と考えます。
自治労が抱える組織力・組織人員低下の問題にも直結する課題だと思います。
自治労のスケールメリットを活かし、旧来のやり方にとらわれない、組合員にとっての「自治労」の新しい価値を創出するような知恵を、自治労総体を挙げて各県本部・単
SNSなど情報発信に対する意識が役職者のなかで薄く感じる。
役職者の多くはツールや時間、人員リソースを現状維持で進めようとしたり、情報発信のリスクに意識が行き、炎上を恐れすぎる傾向にある。そのため、取り組みが出来ていないように感じる。

Tiktok, Twitter, Instagram, Youtube, Facebookなどのプラットフォーム上の「素晴らしい」コンテンツに囲まれて暮らしている組合員のことを思います。

作成人数が少ない。

４．単組機関紙、組合ニュースの発行状況

―発行回数は年平均 8.5 回、「発行なし」も 38.5％―

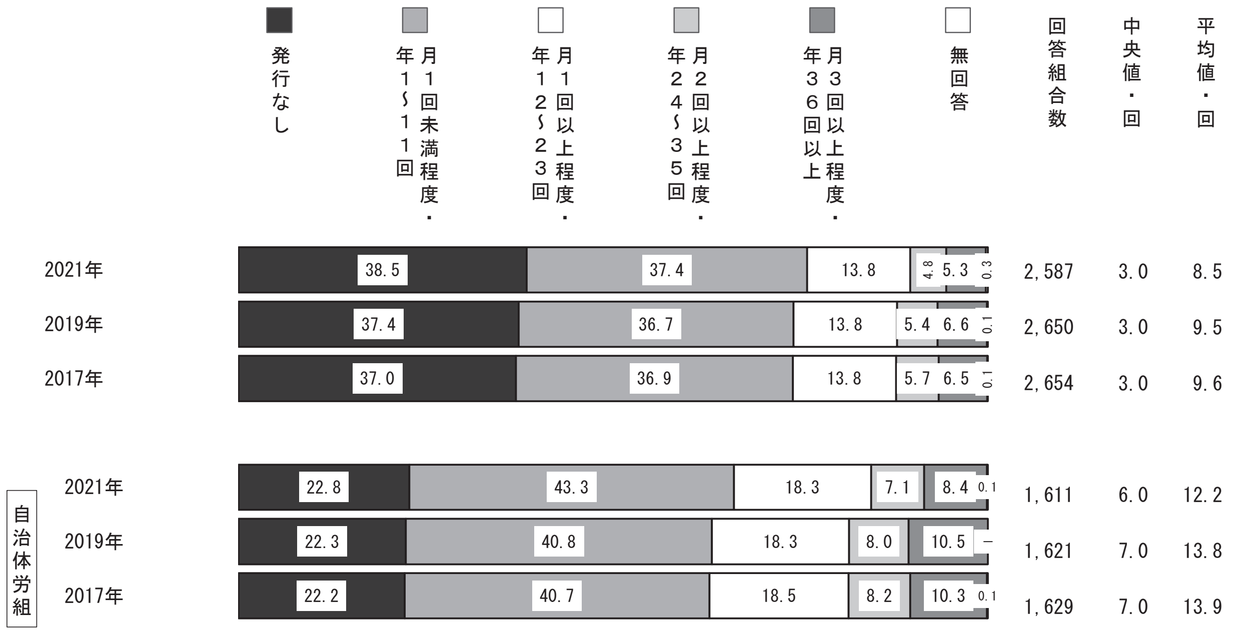
単組による情報宣伝について、機関紙、組合ニュース（支部、分会、青年・女性部、各評議会が独自に発行するものを除く）の年間の発行回数についてみていくと、まず、発行の有無では「発行なし」は 38.5％みられ、「発行あり」は 61.3％にとどまる。発行回数は、年１～11 回（月１回未満）の組合（37.4％）が多く、これに年 12～23 回（月１回以上程度）の組合（13.8％）が続いている。「発行なし」の組合も含めた発行回数の平均は年 8.5 回である。2019 年調査から 1.0 回減少している（**第Ⅱ－14 図**）。

自治体労組でも「発行なし」は 22.8％である。平均発行回数は 12.2 回で自治労全体に比べ多いが、団体区分によって大きな差がある。発行頻度の高い順に、都道府県職が 25.7 回、県都・政令市職が 24.1 回、市職が 17.5 回と続いている。これに対し、町・村職は 5.4 回、事務組合・広域連合労組は 3.1 回で、「発行なし」の組合がそれぞれ 32.7％、63.8％を占めている。平均発行回数について 2019 年と比べると、県都・政令市職と市職では３～４回少なくなっている（**第Ⅱ－23 表**）。

自治体労組以外では、臨時・非常勤労組と国保労組を除いた各団体区分で「発行なし」の組合が多い。「発行なし」の比率は、書記労・直属支部（93.8％）で９割強、公社・事業団労組（76.6％）、社協労組（77.5％）、市町村共済労組（70.5％）、全国一般評議会（56.8％）、その他民間事業所労組（69.0％）でも半数以上を占める。

自治体労組について、組合員総数別に平均発行回数をみると、組織規模が大きいほど発行頻度は多くなっている。50 人未満の 1.9 回に対し、200 人以上 1,000 人未満は 15～21 回で月１回以上となり、さらに、1,000 人以上は 36.5 回と際立って発行頻度が多い（**第Ⅱ－24 表**）。

第Ⅱ－14 図　機関紙・組合ニュースの年間発行回数



第Ⅱ－23表　機関紙・組合ニュースの年間発行回数

	発行なし	発行あり計	発行あり計（2019年）	月1回未満程度・年1～11回	月1回以上程度・年12～23回	月2回以上程度・年24～35回	月3回以上程度・年36回以上	無回答	回答組合数	中央値・回	平均値・回	平均値・回（2019年）
2021年	38.5	61.3	62.5	37.4	13.8	4.8	5.3	0.3	2,587	3.0	8.5	9.5
自治体労組計	22.8	77.1	77.7	43.3	18.3	7.1	8.4	0.1	1,611	6.0	12.2	13.8
都道府県職	8.3	91.7	90.0	19.4	25.0	15.3	31.9	･･･	72	21.0	25.7	26.2
市町村職計	19.4	80.5	81.4	46.1	19.4	7.1	7.9	0.1	1,398	6.0	12.4	14.3
県都･政令市職	4.7	95.3	96.2	28.3	27.4	15.1	24.5	･･･	106	18.0	24.1	27.8
市職	8.6	91.2	91.4	41.3	28.4	10.2	11.4	0.2	649	11.5	17.5	20.2
町･村職	32.7	67.2	68.9	53.8	9.0	2.6	1.7	0.2	643	2.0	5.4	6.1
事務組合･広域連合労組	63.8	36.2	36.9	28.4	4.3	2.8	0.7	･･･	141	0.0	3.1	3.4
臨時･非常勤労組	36.4	63.0	67.4	48.1	13.6	1.3	･･･	0.6	154	2.0	4.5	5.3
公社･事業団労組	76.6	22.5	29.4	18.8	3.2	･･･	0.5	0.9	218	0.0	1.5	1.7
社協労組	77.5	21.6	26.5	17.1	1.8	2.7	･･･	0.9	111	0.0	1.7	2.6
国保労組	8.5	91.5	85.4	74.5	12.8	4.3	･･･	･･･	47	5.0	6.3	6.5
市町村共済労組	70.5	29.5	29.5	15.9	9.1	4.5	･･･	･･･	44	0.0	3.4	3.4
書記労･直属支部	93.8	6.3	10.2	6.3	･･･	･･･	･･･	･･･	48	0.0	0.2	0.3
全国一般評議会	56.8	40.5	40.5	29.7	8.1	･･･	2.7	2.7	37	0.0	3.6	3.3
社保労連	･･･	100.0	100.0	100.0	･･･	･･･	･･･	･･･	1	10.0	10.0	10.0
その他民間事業所労組	69.0	31.0	32.1	25.0	5.7	0.3	･･･	･･･	316	0.0	1.8	2.1

※下線数字は「2021年」より5ポイント以上少ないことを示す
※薄い網かけ数字は「2021年」より5ポイント以上多いことを示す
※濃い網かけ数字は「2021年」より15ポイント以上多いことを示す
※回答組合数10以下なら網掛等非表示

第Ⅱ－24表　機関紙・組合ニュースの年間発行回数　【自治体労組】

		発行なし	発行あり計	発行あり計（2019年）	月1回未満程度・年1～11回	月1回以上程度・年12～23回	月2回以上程度・年24～35回	月3回以上程度・年36回以上	無回答	回答組合数	中央値・回	平均値・回	平均値・回（2019年）
	自治体労組計	22.8	77.1	77.7	43.3	18.3	7.1	8.4	0.1	1,611	6.0	12.2	13.8
組合員総数別	50人未満	65.9	33.7	33.6	27.6	5.7	･･･	0.4	0.4	261	0.0	1.9	2.0
	50人以上	34.0	66.0	66.0	55.2	7.7	1.0	2.0	･･･	297	2.0	5.2	5.6
	100人以上	18.5	81.5	83.3	58.7	14.6	5.3	2.9	･･･	378	5.0	7.9	8.8
	200人以上	8.7	91.3	90.6	54.1	23.3	6.4	7.6	･･･	172	9.0	15.0	17.9
	300人以上	1.5	98.5	97.5	48.9	30.5	10.7	8.4	･･･	131	11.0	16.2	20.1
	400人以上	5.2	94.8	96.3	36.4	36.4	14.3	7.8	･･･	77	12.0	20.0	21.8
	500人以上	1.9	98.1	98.7	28.2	35.9	15.4	18.6	･･･	156	16.5	21.1	23.7
	1,000人以上	･･･	99.3	100.0	7.9	27.3	22.3	41.7	0.7	139	30.0	36.5	38.6

※下線数字は「自治体労組計」より5ポイント以上少ないことを示す
※薄い網かけ数字は「自治体労組計」より5ポイント以上多いことを示す
※濃い網かけ数字は「自治体労組計」より15ポイント以上多いことを示す

５．ＳＮＳによる組合員向けの情報発信

―発信している組合は 8.1%―

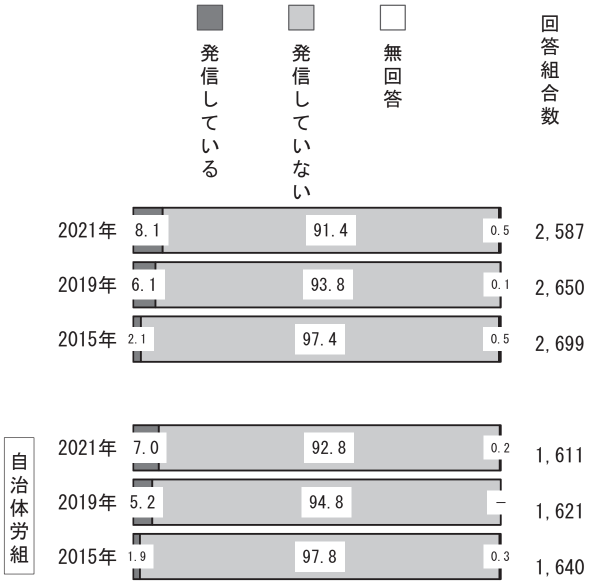
ＳＮＳを活用した組合の情報発信について、「発信していない」組合は 91.4%と大多数を占め、「発信している」は 8.1%にとどまる。2015 年調査以降、発信している組合は微増しているものの未だほとんど活用は進んでいない（**第Ⅱ－15 図**）。

自治体労組に限ってもほとんど同じ状況である。ただし、都道府県職では「発信している」が 23.6%と活用が進んでいる。

自治体労組以外で発信している組合の多い団体区分は、臨時・非常勤労組（15.6%）、全国一般評議会（16.2%）、その他民間事業所労組（13.3%）だが、いずれも 1 割台にすぎない（**第Ⅱ－25 表**）。

自治体労組のうち、発信している組合は、組合員総数 1,000 人以上で 4 組合に 1 組合を占めるが、それ以下では 1 割に満たない（**第Ⅱ－26 表**）。

第Ⅱ－15 図　ＳＮＳによる組合員向けの情報発信



第Ⅱ－25 表　ＳＮＳによる組合員向けの情報発信

	発信している	（発信している 2019年）	発信していない	無回答	回答組合数
2021年	8.1	6.1	91.4	0.5	2,587
自治体労組計	7.0	5.2	92.8	0.2	1,611
都道府県職	23.6	21.4	76.4	･･･	72
市町村職計	6.4	4.8	93.4	0.1	1,398
県都・政令市職	9.4	8.7	90.6	･･･	106
市職	8.5	6.4	91.4	0.2	649
町・村職	3.9	2.5	96.0	0.2	643
事務組合・広域連合労組	3.5	2.0	95.0	1.4	141
臨時・非常勤労組	15.6	9.1	83.8	0.6	154
公社・事業団労組	6.9	4.3	92.2	0.9	218
社協労組	6.3	4.3	92.8	0.9	111
国保労組	2.1	2.1	97.9	･･･	47
市町村共済労組	･･･	2.3	100.0	･･･	44
書記労・直属支部	4.2	4.1	95.8	･･･	48
全国一般評議会	16.2	13.5	81.1	2.7	37
社保労連	･･･	･･･	100.0	･･･	1
その他民間事業所労組	13.3	11.3	85.4	1.3	316

※下線数字は「2021年」より5ポイント以上少ないことを示す
※薄い網かけ数字は「2021年」より5ポイント以上多いことを示す
※濃い網かけ数字は「2021年」より15ポイント以上多いことを示す
※回答組合数10以下なら網掛等非表示

第Ⅱ－26 表　ＳＮＳによる組合員向けの情報発信
【自治体労組】

		発信している	（発信している 2019年）	発信していない	無回答	回答組合数
自治体労組計		7.0	5.2	92.8	0.2	1,611
組合員総数別	50人未満	4.2	3.1	94.6	1.1	261
	50人以上	2.7	2.4	97.3	･･･	297
	100人以上	6.6	4.8	93.4	･･･	378
	200人以上	8.7	5.0	91.3	･･･	172
	300人以上	4.6	3.3	95.4	･･･	131
	400人以上	3.9	1.2	96.1	･･･	77
	500人以上	7.7	5.7	92.3	･･･	156
	1,000人以上	23.0	19.7	76.3	0.7	139

※下線数字は「自治体労組計」より5ポイント以上少ないことを示す
※薄い網かけ数字は「自治体労組計」より5ポイント以上多いことを示す
※濃い網かけ数字は「自治体労組計」より15ポイント以上多いことを示す

★主なSNSとそれぞれの特性

種別	国内ユーザー数・年代	文字数制限	拡散力・適した使用目的	労働組合として使う場合のメリット・留意点	費用
LINE	約9300万人で最多・全世代	1吹き出し500字	公開範囲を限定しての情報伝達・共有に最適 ただし一利用者には他の利用者がわからず。 拡散力は低い。	利用者が多いため、多くの組合員の登録を見込める。議案書、機関紙等のファイル添付も可能。 ※県本部・単組として発信する場合、「LINE公式アカウント」のサービス(無料・有料プランあり)を使うとよい。	ビジネス用LINE-Works(有料)は単組間の情報ネットワークとして活用可能
FaceBook	約2600万人・40代以上が中心	制限なし	原則は実名使用。興味関心を共有するグループ内の意見交換、交流に向く。拡散力は弱い。	使いやすく安心だが、若年層の利用者数は少ないため、情報は届きづらい。	無料
Twitter	約4500万人・若年層中心	1投稿140字 (有料拡大版もあり)	公開範囲を制限せず、ハッシュタグ検索とリツイート(RT)で拡散力が大(公開制限も可能ではある)。 他方、字数が少なく炎上リスクも。	一般社会向けに高頻度で簡潔な発信を行う選挙闘争に向く。(ただし、選挙闘争時期のみにしか稼働しないアカウントはフォローもされない。フォロワーがいなければRT等しても広まらない) 他方、労働組合の日常活動や機関意思の伝達等には不向き。	無料 ※有料プランあり
Instagram	約3300万人・若年層に人気	2,200字	写真、動画の投稿が主。映像美を競う趣味の世界。	「文章」を考えずに投稿できることが利点。文章も入力できるが、ユーザーが閲覧しているのはあくまで「写真」や「動画」。 投稿のハードルが最も低いため、始めやすい。 動画はTikTok、YouTubeショートと競合。	無料
YouTube	約7000万人・全世代	概要欄:2,500字 1コメント1,000字 1チャット100字	動画投稿サイト	学習教材や集会・会議のライブ中継など利用価値が大きい	無料

＊2023年3月時点 参考サイト https://gaiax-socialmedialab.jp/socialmedia/435#a

単組・県本部用　Facebook 投稿基準　モデル

Facebook について、下記のとおり投稿に関する基準を設け、適用する。

Ⅰ．目的・ターゲット
○○（組織名）の取り組み、考えを広く社会へ発信することを目的とする。組合員を含む、広く国民をターゲットとし、○○を身近に感じてもらうよう、わかりやすい言葉で呼びかけるように発信する。

Ⅱ．管理者
管理・投稿は××（部署名または役職名）が担当する。

Ⅲ．投稿内容

１．各種告知
　発行物、イベント案内、応募、労働相談、キャンペーン、テレビ出演、雑誌・インターネット等への掲載等
２．各種取り組み・考え方の周知
　日常活動、会議、集会、街頭行動、他媒体で○○（組織名）が取り上げられているもの等の中から、広く社会に周知すべきもの
３．他組織の投稿内容紹介(シェア、コメント付きのシェア)
４．選挙関係
５．その他必要と判断されたもの

Ⅳ．投稿・拡散ルール

１．構成
タイトル、本文、画像・動画、リンク付きの場合はサムネイル
（１）タイトル：【　　】で括る（タイトルの後は改行）
（２）本文：読む人の共感が得られるよう、呼びかけるような文章とする。
（３）画像・動画：極力、写真・動画を添付する。画像形式は jpg、png、gif、tiff 形式のいずれか、また動画は MOV、MP4 のいずれかとする。公序良俗に反するものは不可。○○に関係しない第三者が特定できるものは相手の承諾がない場合は使用不可。(集会・会議参加者を除く）
（４）リンク誘導：事前にリンク先を確認し、サムネイルを付ける。サムネイル

がない場合は関係画像を添付する。

２．投稿

投稿は基本的に××が行う。××が取材しない各種行事等は担当部署（担当者）が本文を作成し、××が投稿する。できるだけタイムリーに投稿する。

３．拡散

投稿する内容を主に担当する役職員は、拡散に協力する。集会や会議等では参加者に投稿を周知し、拡散協力を口頭や資料等を通じて呼びかける。
〇〇の役職員全体で拡散に協力する。

４．コメントへの対応

基本的にコメントには対応しない。誹謗中傷が激しい書き込みは、コメントを非表示にする。必要に応じて、ブロックにより書き込みできないようにする。

Ⅴ．広告

基本的には出稿しないが、必要に応じて検討する。

以上

単組・県本部用　twitter への投稿基準　モデル

twitter について、下記のとおり投稿に関する基準を設け、適用する。

Ⅰ．目的・ターゲット

○○（組織名）の取り組み、考えを広く社会へ発信することを目的とする。組合員を含む、広く国民をターゲットとし、○○を身近に感じてもらうよう、わかりやすい言葉で呼びかけるように発信する。

Ⅱ．管理者

管理・投稿は××（部署名または役職名）が担当する。

Ⅲ．投稿内容

１．各種告知

発行物、イベント案内、応募、労働相談、キャンペーン、テレビ出演、雑誌・インターネット等への掲載等

２．各種取り組み・考え方の周知

日常活動、会議、集会、街頭行動、他媒体で○○（組織名）が取り上げられているもの等の中から、広く社会に周知すべきもの

３．他組織の投稿内容紹介(RT やいいね、引用 RT)

４．選挙関係

５．その他必要と判断されたもの

Ⅳ．投稿ルール

１．掲載ルール

文章は 140 字以内とする。

動画はファイル形式 MOV または MP4 とする。ファイルサイズは 512MB まで、動画の長さは 2 分 20 秒までの制限あり。公序良俗に反するものは不可。連合に関係しない第三者が特定できるものは相手の承諾がない場合は使用不可。

２．拡散

投稿する内容を主に担当する役職員は、拡散に協力する。集会や会議等では参加者に投稿を周知し、拡散協力を口頭や資料等を通じて呼びかける。

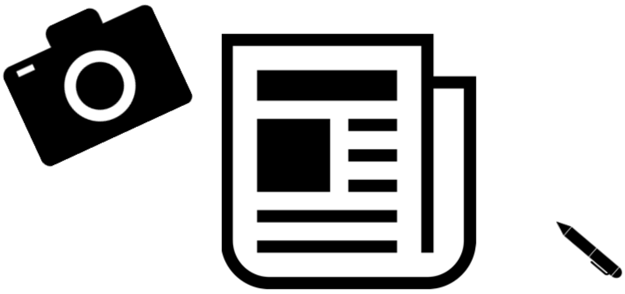
○○の役職員全体で拡散に協力する。

Ｖ．広告

基本的には出稿しないが、必要に応じて検討する。

以上

北海道の機関紙コンクール



5月15日　教宣部長・担当者会議

自治労北海道本部教育情宣部　高田　将平

●自治労北海道本部機関紙コンクールの概要

毎年、８月ごろに応募を開始し、道本部定期大会（９月末）において結果を発表していた。
２０２０年以降は大会が対面開催できなくなったため、結果は機関紙とホームページで公表している。
賞品総額９万円。

2022機関紙コンクール・第55回写真コンクール審査結果!!

●応募状況

コンクールに応募する単組は１０単組程度。また、コンクールに関係なく、定期的に機関紙を郵送してくる単組も１０程度。応募単組は固定化し数も多くはないが、コンクールを意識している単組は一定ある。

●北海道の事情

道本部の機関紙を組合員に身近なものとするため、組合員ことや単組の話題を掲載したい。
道本部・地方本部の専従役職員の協力で、単組の取り組みやネタは一定程度収集できるが、コロナ禍によって取材ができなくなった。
そもそも、単組や地方本部など約２４０の加盟組織があり、東西に５００ｋｍ、南北に４００ｋｍという北海道の地域的な事情から、教育情宣部（２人）がそう簡単に取材のためだけに単組に赴くことはできない。

3

●機関紙を要求する

道本部の機関紙に掲載することを決めた単組の取り組みは、その取り組みを掲載した単組機関紙を送るよう要求する。
機関紙を作成していない場合は、作成するよう促す。機関紙作成が停滞していた単組が機関紙をつくり始めるきっかけとなる。

↓

道本部の機関紙に掲載。さらにコンクールに応募を促す。

●コンクールの位置づけと課題

・機関紙をつくった単組が、それを継続するモチベーション（何かもらえばやる気も出るだろう）
・単組が道本部の機関紙を組合員に周知するきっかけ（受賞すれば自慢したくもなるだろう）
・他の単組が「自分たちもつくってみよう」と思うきっかけ
（うちの単組の方がいいことやってると感じる人もいるだろう）

課題　せっかく機関紙作成を再開した単組も、担当者が変わると再び停滞してしまう

4

府本部 LINE 公式アカウントの概要

基本理念

- 「府本部」のスケールメリットを活用した組合員サービスの提供
  → 「福利厚生サービス」の金銭的利益と「読み物」での“暇潰し”による接点増加
- 求められていない（＝期待されていない）組合員にこちらから“情報”を PUSH
- 組合員から求められた時にはすぐにわかりやすく活用できる利便性を具備

トーク配信 ～LINE の強みを活かした B to C 戦略～

毎週火曜日朝 8:30（＝通勤時間の暇つぶしを狙う）に 3 要素からなるメッセージを配信

① 4 コマ「おにき日和」　② 読み物（ダイジェスト）　③ 週替わり情報

- 府本部（Business）から単組（Business）ではなく直接組合員（Customer）に情報配信することで単組の手間なくスケールメリットを活用　（B to B から B to C に戦略変化）
- アクセス（タップ回数）分析で B to C マーケティングが可能
- PUSH 通知で受け身の組合員を「攻め」ることができる反面、**探しやすさは壊滅的**

リッチメニューの活用 ～組合員専用サイトとの連携～

トーク画面下部の「メニュー」から項目を選ぶことで必要な情報に簡単に辿り着く

- メニューのアイコンタップで組合員専用 WEB サイトに遷移
- 専用 WEB サイトでは情報を整理し、必要な情報を探しやすく
- トーク画面中のバナーをタップしても専用 WEB サイトの個別ページに移動

  → トーク画面は画像だけの「入口」、タップ先で詳しい内容を説明

  ＝ 一目でわかるわかりやすさ（縦長すぎる、字だらけなどで見る気↓を回避）

府本部公式 LINE アカウントのコンテンツ

① 総合福利厚生サービス「ゆいまーる」

自治労大阪府本部 総合福利厚生サービス

ゆいまーる

- 奈良県本部「クミ得」のようにサービス名命名で組合員の記憶に残りやすくなる効果を狙う
- 「ゆいまーる」沖縄の方言で「助け合い」の意。互いに　助け合う関係を結ぶ、まさに労働組合の基本であるこの言葉を総合福利厚生サービスの名称とした
- 個別の内容はⅠ.に掲載した通り
- この部分が「オトク」のメイン

② 共済連載「FP 瀬戸家みのりさんの「お金のコラム」"家計を見直す"」

- 自治労御用達ファイナンシャルプランナー「瀬戸家みのり」さんによるお金のコラムを月１で連載
- 共済加入促進につながる内容になっている
- 共済の取り扱いが異なる旧都市交単組の組合員にはこの部分に限り配信していない。この枠を使って別の内容で配信することも多い。

家計を見直す⑦

金利が上昇する気配ですが、住宅ローンの見直しをした方がいいのでしょうか？

Q　**日銀の金融緩和が修正され金利が上昇傾向にあります。住宅ローンは見直しをした方が良いのでしょうか？アドバイスをお願いします。**

A　**収入と返済額のバランス（余裕度）を見て金利タイプを考えるべきです。**

今年に入ってからの金利上昇に、住宅ローンを組んでいる方はドキドキされているかもしれません。

住宅ローンは20年、30年と長い期間かけてお付き合いしていくもの。将来の金利動向は誰にも予想ができません。**金利動向にドキドキしない「住宅ローン金利の決まり方と選び方」**をお伝えします。

①住宅ローン金利の決まり方

- **変動金利は短期金利に連動、固定金利は長期金利に連動している**
- **原則、変動金利と固定金利に連動性はない。**

今上がっているのは**「長期金利」**ですから、固定金利が上昇傾向です。基本的には「それにつられて変動金利も上がる」ことはありません。（しかし、他の要因で短期金利が上がる可能性は大いにありますし、上がらない可能性もあります。）

③ 読み物・連載

- 労働組合の機関紙作成をサポートする団体「機関紙編集者クラブ」が機関紙の埋め草記事として提供している「機関紙編集サービス」の連載等を４週に分けて掲載
（ちなみに、私も「生命の海の生き物」という毎月連載と新年号の記事複数を書いています）

≪主な連載・記事カテゴリ≫

連/生命の海の生き物	その他「自然」	連/パソコンらくらく術
連/現代的「文化」案内	その他「文化」	本の紹介
連/暮らしの中の魚	連/地元がうんだ美味しい味	連/おいしいもんめぐり大阪
レジャー・お出かけ	映画紹介	健康
ボランティア info	労働ニュース	連/労基法でよもやま話

トリビアの宝庫「ホンソメワケベラ」（後編）｜自治労...
https://members.jichiro-osaka.gr.jp/reading-matter/nature/sea-life

ホンソメワケベラのトリビアは、ウソのようなホントの話ばかりだ

前編では、ホンソメワケベラの生態のうち、もっとも有名な「掃除をする魚」としての雑学について記した。

まるで高校の生物の参考書のような解説になってしまったが、今回はもっとマニアックな知られざる生態などについて紹介したい。

「ホンソメワケベラは、誤植がそのまま正式名称になった」嘘のようなホントの話だ。もともと近縁に「ソメワケベラ」という魚がいて、それより体が細いことから、当初は「ホソソメワケベラ」という和名が考案されていた。

しかし、命名者がその著書で名前を記載した際、「ソ」と「ン」を間違えて「ホンソメワケベラ」と記載してしまい、それがそのまま標準和名として広まったのだとか。

「ホンソメワケベラは、オスになったりメスになったりできる」これも事実。通常、オス1匹と複数のメスの集団を形成するホンソメワケベラは、何らかの理由でオスがいなくなると、一番大きなメスがオスに変わる。一方、集団がオスばかりになると一部の個体がメスに戻る。ちなみに性転換の途中はどちらの性別でもないあいまいな状態になるのだとか。

そして最大のトリビアは2019年に発表されたこの事実。
「ホンソメワケベラは、鏡に映った自分を正しく『自分』と認識できる」というもの。鏡に映る姿を自分だと認識できる「鏡像自己認知」は、私たちヒトは当然ながら、他にはチンパンジーやイルカ、ゾウ、カラスなど、高度な社会生活を送る、いわゆる「賢い」生き物でのみ知られてきた能力。

一方、魚類は記憶力や認知能力が低い、要するにアホな生き物だと考えられてきた。しかし、大阪市立大の研究で、高い心的能力である**自己認知能力**が示された。

その実験はこうだ。寄生虫を掃除するホンソメワケベラの習性を利用したもので、喉元に寄生虫のような茶色の印をつける。すると、鏡を見た時だけ、水槽の底に自らの喉を何度も擦る動作を見せる。印がないときや透明な印のとき、鏡がないときはその行動を見せない。

明らかに鏡に映った姿を自分と認識して、付着した寄生虫を擦り落とそうとするのだ。そして、そのあとに鏡で喉を確認する姿勢をとる。寄生虫が取れたか確認しているのだ。

魚の賢さを初めて示したホンソメワケベラ。単なる「共生」の代表例だけではない面白さを知っていただきたい。

- 自治労大阪府本部独自記事も掲載
→ 飲食関係の記事はデジタル会員証割引サービスと連動企画を実施することも
（例：「ラーメンでまーるく」紹介店舗で会員証提示で煮卵無料サービスなど）

府本部公式 LINE アカウントの単組利用

登録は単組別 QR から

- 登録用の QR コードを単組別に作成、名刺大のカードにして組合員に配布

登録時に内部処理として単組の「タグ」が付与され、登録者を単組別に管理することができる

「単組組合員限定」の配信とメニュー

単組専用のサイトを作成し、独自メニューのタップで単組専用サイトに移動させることもできる

- 単組機関紙のデータ配布
- 書面大会時の資料配布
- 単組独自の斡旋案内
- 交渉情報のお知らせ

など

登録時に付与したタグを利用、単組からの要請を受けて当該単組組合員だけにトーク配信できる

同じくタグを利用し、メニュー部分を単組独自のものに変えることもできる

インターネットを通じた単組－組合員間の関係構築をサポート可能
府本部情報 ＋ 単組情報のツールとしても活用でき、単組で独自 LINE を運用する必要なし

LINE の運用管理 / サイト構築のサポート

https://www.studiokutouten.co.jp/

大阪府本部の機関紙の作成、チラシ等印刷物、外部 WEB サイトの構築・管理の他、公式 LINE アカウントのシステム一式の構築･運営管理､最近では WEB 配信などを一手に請け負う。社員は府本部加盟組合員（くとうてんユニオン）。

第 39 回県本部教宣集会開催要綱・日程

１．目　的

運動課題の周知と具体的な取り組みを周知することから、当局に対しては組合要求の宣伝など、多面的な効果があり、大衆的な取り組みを主旨とする労働運動の基盤的な取り組みであることから教宣集会を開催し、教宣担当者の育成に取り組む。

各単組の教宣担当者が集まり、各種闘争や組織拡大の取り組みにおける教宣活動の重要性を認識するとともに、より効果的な教宣活動をめざして教宣技術のスキルアップをはかる。また、他単組の取り組みを学び、交流と情報交換を深めることにより、組織の強化と自治労県本部運動の発展をはかる。

２．主　催　　自治労鹿児島県本部（総合組織局）

３．日　時　　2022年11月22日（火）13：30～23日（水）12：15まで

４．講　師　　ヨッシー・イリエ（入江　義寛）氏（自治労まんが集団事務局長）

５．会　場　　県労働者福祉会館７階会議室及びウェブ配信

６．交流会　　未定

７．参加対象者　単組（評議会）教宣担当者など

８．日　程（予定）

１日目:11月22日（火）

13：00～13：30（30分間）	受付
13：30～13：40（10分間）	開会・県本部あいさつ、日程説明、 県本部方針提起
13：40～17：10（150分間）	「単組機関紙・ビラの作り方」講義編 （記事の書き方・表現方法など） 講師　ヨッシー・イリエさん （自治労まんが集団事務局長）
18：30～	夕食交流会

２日目:11月23日（水）

09：00～11：00（120分間）	「単組機関紙・ビラの作り方」実践編
11：00～11：15（15分間）	休憩
11：15～12：15（60分間）	作品の講評・閉会

■講師紹介：ヨッシー・イリエ（入江　義寛）（いりえ　よしひろ）氏

自治労愛知県本部特別執行委員。労働組合教宣・広報に 25 年に渡りたずさわる。自治労まんが集団事務局長を 20 年歴任。現在、「自治労全国情報宣伝セミナー」をはじめ各県本部情報宣伝セミナーや選挙ビラ作成講座など年５～７回の講師をされる他、連合や情報労連などの他産別からの講師依頼も受け、活躍をされている。

以前の教宣集会（2018 年３月開催）

第 38 回自治労鹿児島県本部教宣集会
　集会の内容は下記のとおり。
　ア．県本部方針提起
　イ．「単組機関紙の作り方（記事の書き方・表現方法など）」講義編
　ウ．「パソコンで作る機関紙」実践編
　エ．作品の講評

機関会議報告（2023 年２月　第 86 回県本部臨時大会　経過より）

第７．教育宣伝の取り組み

１．教育宣伝の取り組み

（１）機関紙「自治労かごしま」の発行

　県本部、各単組、総支部・地区本部の情勢や政治活動などの教育・宣伝を題材に発行した。これまで、月３回（５・15・25 日）をベースに発行してきた。
　機関紙の発行は、組合員と県本部運動が一体化する意味でも重要な役割を果しているので、県本部、総支部（地区本部)、単組と連携し、組合員参加型の紙面づくりをめざす。

（２）2022 年度・2023 年度発行は次のとおり。(2022 年９月～2023 年１月まで）

発行月	発行番号	記事内容
2022 年９月	５日号（第 1751 号)	本部第 96 回定期大会、第 38 回鹿児島県反核・平和の火リレーなど
	15 日号（第 1752 号)	2023 年度運動方針を聞く、新型コロナみなし入院の取扱い見直し、吉田ただとも参議院議員来鹿予定など
	25 日号（第 1753 号)	第 32 回県本部組織集会、第 39 回地方自治研究全国集会広告など
2022 年 10 月	５・15 日合併号（第 1754 号)	第 85 回県本部定期大会特集号
	25 日号（第 1756 号)	第 39 回地方自治研究全国集会・静岡自治研、県労福協・2022 全国福祉強化キャンペーンなど
2022 年 11 月	５日号（第 1757 号)	県職生協「冬ギフト物販」など
	15 日号（第 1758 号)	県市町村課との協議など

	25日号（第1759号）	第39回県本部教宣集会など
2022年12月	５日号（第1760号）	地方自治研究所総会・定例研究会記事、第８回じちろう全国共済集会など
	15日号（第1761号）	県本部臨時第３回拡大闘争委員会、退職予定者セミナーなど
	25日号（第1762号）	2023春闘中央討論集会、2022年10大ニュース、県本部協力工場会入庫特典抽選会結果など
2023年１月	５・15日合併号（第1763号）	新春特集号

（３）各単組・評議会・総支（地区本）部機関紙の「じちろうネット」掲載

各単組が発行する機関紙（情報）を、じちろうネットの「機関紙：単組」（じちろうネット→県本部からの発信文書（発文（鹿児島））→機関紙：単組）にＰＤＦで掲載している。

2022年９月から2023年１月末までは、県職労（女性部）、鹿児島市職労、薩摩川内市職労、霧島市職労、鹿屋市職労、奄美市職労、屋久島町職労、全国一般鹿児島、鹿児島交通労組、県本部女性部の２評議会９単組を掲載。単組（総支部・地区本部）内で発行していても県本部に提供していない単組も多くある。

単組情報の提供や共有化で運動の連携をはかる必要があるので、単組からの提供をお願いしたい。

２．教育研修の取り組み

（１）県本部教宣集会

県本部は、各種闘争や組織拡大の取り組みにおける教宣活動の重要性の認識やより効果的な教宣活動をめざすための教宣技術のスキルアップ、また、他単組の取り組みを学び、交流と情報交換を深めることによる組織強化と自治労県本部運動の発展を目的に、2022年11月22日（火）・23日（水）に教宣集会を開催した。各単組の教宣担当者を中心に、15単組25人が参加した。集会の内容は下記のとおり。

ア．県本部方針提起

イ．「単組機関紙・ビラの作り方（記事の書き方・表現方法など）」講義編

ウ．「単組機関紙・ビラの作り方」実践編

エ．作品の講評

第39回自治労鹿児島県本部教宣集会タイムスケジュール

2022年11月22-23日:鹿児島県労働者福祉会館7階

11月22日（火）	13:40〜15:15	①講師あいさつと講座内容説明（5分）
		②自己紹介（15分）
		③各自「ドラえもん」のキャッチコピー製作（10分）
		④「ドラえもん」の講評（5分）
	15:15〜16:30	・読まれる機関紙づくりのツボ〜ツボを押さえりゃ簡単機関紙づくり〜
		①つくる前のツボ
		②読まれるためのツボ
		③実践のツボ
		④演習（記事を書いてみよう）
		⑤演習（見出しをたててみよう）
		⑥イキイキとした広報写真のツボ
11月23日（水）	9:00〜9:40	・ビラのツボ〜ツボを押さえりゃ簡単ビラづくり〜
		⑦レイアウトのツボ
		⑧キャッチコピーのツボ
		⑨イラスト・カットのツボ
		⑩演習（段物広告をつくる）※時間があれば…。
	9:40〜10:00	・選挙のツボ　※時間があれば…。
	10:00〜11:00	⑪演習（A4選挙ビラをつくってみよう）
	11:00〜11:15	・休　憩
	11:15〜12:15	・講　評

■2022.11.22-23自治労鹿児島県本部教宣集会

読まれる機関紙づくりのツボ

～ツボを押さえりゃ簡単機関紙づくり～

1.つくる前のツボ
2.読まれるためのツボ
3.実践のツボ
- レイアウトのツボ
- 記事のツボ
- 見出しのツボ

4.レイアウトの禁じ手
5.イキイキとした広報写真のツボ

YOSHIHIRO IRIE

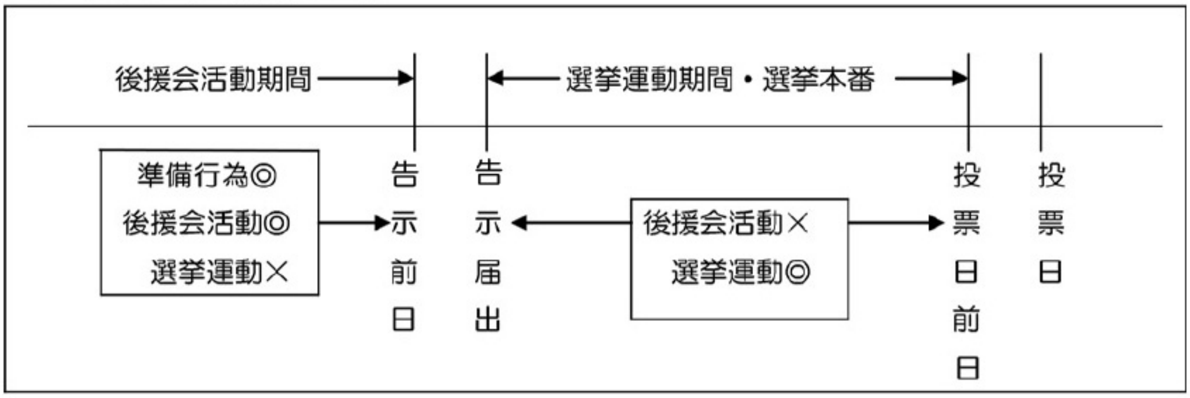
2022年11月22-23日
鹿児島県本部教宣集会

ヨッシー・イリエの選挙のツボ 2022

ヨッシー・イリエ

1.政治活動と選挙運動の違い

● 選挙運動の期間と活動



公職選挙法は、政治活動や選挙運動等を定めているすべての国民に関わる法律です。公職選挙法上の“選挙運動”とは、**①特定の選挙で、②特定の候補者の当選を図るために、③有権者に働きかける行為**のことをいい、“選挙運動”とそれ以外の“政治活動”とを明確に区別しています。

“選挙期間”前の上記①から③の３要件を備えた選挙運動は、公職選挙法の「**事前運動**」として禁止されています。ふだん“選挙期間”以外に私たちが行っている活動は“**政治活動**”であって、“**選挙運動**”ではありません。“政治活動”を行うことは、日本国憲法で保障されたすべての国民の権利です。**労働組合の政治活動の自由**も、裁判所の判例で保障されています。

ちなみに、公職選挙法の解釈では、以下のような行為は“選挙運動”ではなく、「**選挙運動類似行為**」として、“選挙期間”前にも行うことができるとされています。政治活動は、この選挙運動類似行為の一つなのです。

①立候補準備行為　例）労働組合内の推薦会の開催、推薦決議等
②政治活動　例）個人、労働組合、政党などの一般的な政治活動
③後援会活動　例）後援会の設立、後援会加入勧誘等

2023年度教宣部長・担当者会議 **2023/5/15**

作成者	作成者（表示名）	参加者名	備考
01hokkaido	01北海道本部	高田　将平	
03aomori	03青森県本部	加藤篤	
04iwate	04岩手県本部	三浦　章宏	
04iwate	04岩手県本部	及川　隆浩	
05miyagi	05宮城県本部	岡本　雄大	14時まで。
06akita	06秋田県本部	川又　隆史	
06akita	06秋田県本部	山内　一滋	
07yamagata	07山形県本部	安藤寛菜	
07yamagata	07山形県本部	渡部貴之	
08fukushima	08福島県本部	鈴木　茂	
08fukushima	08福島県本部	鈴木　茂	
09niigata	09新潟県本部	加藤　謙	
09niigata	09新潟県本部	前田光洋	
10gunma	10群馬県本部	磯部　雄太	
11tochigi	11栃木県本部	大関　寛泰	
12ibaraki	12茨城県本部	小林弘美	
13saitama	13埼玉県本部	前原　朝子	
14tokyo	14東京都本部	畠山　泰輔	
14tokyo	14東京都本部	須﨑	
15chiba	15千葉県本部	西ヶ谷　悠太	
16kanagawa	16神奈川県本部	浪川　勇	
17yamanashi	17山梨県本部	後藤　真彦	中座予定。
18nagano	18長野県本部	根岸千里	
18nagano	18長野県本部	山田和敏	
19toyama	19富山県本部	酒井　雄司	
20ishikawa	20石川県本部	大壁　登紀子	
20ishikawa	20石川県本部	蓑島　真吾	
21fukui	21福井県本部	四谷　直人	
22shizuoka	22静岡県本部	神原　光	
24gifu	24岐阜県本部	羽根 健司	
24gifu	24岐阜県本部	平光 貴博	
25mie	25三重県本部	宮脇　拓也	
25mie	25三重県本部	松井　涼	
26shiga	26滋賀県本部	川村　幸久	
27kyoto	27京都府本部	中原 慎太郎	
27kyoto	27京都府本部	増永 浩子	
28nara	28奈良県本部	桐木正明	
29wakayama	29和歌山県本部	増田　真治	
29wakayama	29和歌山県本部	田伏　成悟	
30osaka	30大阪府本部	武田　和	
32hyogo	32兵庫県本部	秦信昭	
33okayama	33岡山県本部	秋久　真寛	
34hiroshima	34広島県本部	五反田　桃子	
34hiroshima	34広島県本部	叶　理恵	
35tottori	35鳥取県本部	鈴木結加	
36shimane	36島根県本部	谷口　悠	
37yamaguchi	37山口県本部	山本　容子	
38kagawa	38香川県本部	大西　竜郎	
38kagawa	38香川県本部	久保　武士	
39tokushima	39徳島県本部	山田みゆき	
40ehime	40愛媛県本部	西岡亜実	
41kouchi	41高知県本部	山内　美保	
42fukuoka	42福岡県本部	永田	
44nagasaki	44長崎県本部	村田 元輝	
45oita	45大分県本部	黒木嵩裕	
46miyazaki	46宮崎県本部	三木　貴史	
47kumamoto	47熊本県本部	大矢　啓一朗	
47kumamoto	47熊本県本部	西村　貴詞	
47kumamoto	47熊本県本部	森　友紀	
47kumamoto	47熊本県本部	島﨑　真	
48kagoshima	48鹿児島県本部	高橋　新吾	
49okinawa	49沖縄県本部	知花 史直	
60syahoroso	60社保労連	小濱　賢吾	

46県本部1社保労連　　63人